

小学校に教科担任制を検討すべきではないか

答弁：
来年度研究指定校を
一校設け、研究を
始めたい



ここを
ききました 伊藤 泰樹 議員

- ・指定避難場所の施設整備状況
- ・ウイルス感染症対策について
- ・教科担任制について
- ・森林の活用について

指定避難場所整備状況について

伊藤 全トイレの洋式化、防災ラジオの増設、ケーブルテレビの加入の進捗、取り組み状況は。

政策監 今後も優先度を勘案して検討しながら計画的に整備していると考えている。

森林の活用について

伊藤 森林環境譲与税を使って何をされるのか。

市長 森林経営管理制度による調査と、民有の天然林に対して里山整備で使わせて頂きたい。

ウイルス感染症対策について

伊藤 インフルエンザ予防接種費用の助成を拡充すべきでは。

健康福祉部長 状況を見守ってきたい。

伊藤 風しん抗体検査及び予防接種の取組みを強化すべきでは。

健康福祉部長 市で行う健診での抗体検査の実施と、未受診者に向けて個別の受診勧奨や未受診理由

県道新見川上線の現状はどうなっているのか

答弁：
県ができる限り
早急に着手して
いただけるものと
理解している



ここを
ききました 川上 修一 議員

- ・高梁市の財政について
- ・県道新見川上線について
- ・森林環境譲与税の活用について
- ・町内会支援について
- ・農業支援について

高梁市の財政について

川上 本市の財政見直しは。総務部長 行財政改革の取組みを着実に進めて、社会情勢の変化や、国・県の有利な財政制度を的確に捉え、効果的な基金の運用を図りながら、将来を見据えた適正な財政運営に努める必要があると考えている。

市長 効果的な基金の運用を図りながら、将来を見据えた適正な財政運営に努める必要があると考えている。

森林環境譲与税の活用について

川上 今まで手つかずだった山の整備や管理に使うのか。

市長 その地域の森林経営と、これからの森づくりに適した内容のものに充当できるように働きかけをし、要請していきたい。

町内会支援について

川上 町内会支援についてどのような見直しをしたのか。

市民生活部長

12事業の中で5事業については廃止、7事業については多少変わったものもあるが、継続している。

川上 廃止事業についてはどのように対応するのか。

副市長 社会福祉協議会の事業の中に町内会支援制度と同種のものがあるので利用してほしい。

農業支援について

川上 新規就農者への支援が少ないのではないかと。

産業経済部長 本市では、農業の担い手確保や育成を最重要課題と考えている。小規模なものは難しいが、農業次世代人材投資事業や農林業関係資金実施補給事業という面で支援したい。

大型建設事業は市民との話し合いが足りなかったのでは

答弁：
今市民の皆様方、
90%の方が満足
をいただいている



ここを
ききました 森上 昌生 議員

- ・近藤市政3期の総括について

批判的な市民の理解を得るには

森上 市長の施策に対して批判的な考えを持たれる方もおられるわけですから、そういう方々にたいする、ケアはどのようになされるのか。

市長 批判的な点をお持ちというのは、具体的にどういうことをお持ちかと思いますが、その方が全て批判的だということであれば、この高梁へお住まいへなることがどうなのかという話にもなりますよね。全部施策を批判されるわけですから、ということになればなるかとも思います。

市長 批判をされる方、要は高梁のいまの施策についていけないという方が、全部いけないという方ではないか。

森上 市の施策があつて市民がある。施策に添えないから出ていけないのは暴言ではないか。

市長 基本的には高梁市に安心して住んで頂きたいというのが私の気持ちである。

市役所職員に公共交通を使った通勤日を作ってはどうか

答弁：
8割が自家用車
通勤の現状では
無理がある



ここを
ききました 石井 聡美 議員

- ・感染症への危機管理について
- ・次期総合計画について
- ・第2次高梁市地域公共交通網形成計画について
- ・ひとり親家庭の支援について

第2次高梁市地域公共交通網形成計画について

石井 高梁市の地域公共交通網形成計画について、車を使うことを前提としたまちづくりの見直しと同時に考えるべきではないか。

副市長 それは理想だが、現場におろしていくとき、地域の方の賛同が得られるのかは課題である。中山間地域に暮らす方は、車を手放せない現実がある。

石井 問題点を見つづけるためにも、市役所職員が公共交通を使って通勤する日を作ってはどうか。

副市長 そういった体験をするのは悪いことではないと思うが、高梁市職員の通勤は8割が自家用車で残りはJRなど。参加したくて

石井 そういう難しいところからどうやって通勤、通学させるかということが、公共交通網形成計画である。ぜひ検討してほしい。

副市長 街中に限れば、街歩きに慣れを盛り込むことは検討に値すると思つている。

石井 どのくらいまでなら車を使わず生活できるかを意識すること、健康のためにも重要だと思つている。